

**製品名: GRIP-1 (リン酸化 Ser736) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04747**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	180kDa

**抗原情報**

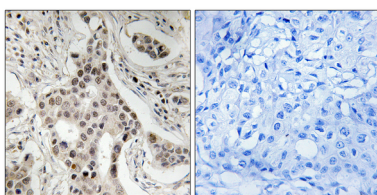
遺伝子名	NCOA2
別名	NCOA2; BHLHE75; TIF2; Nuclear receptor coactivator 2; NCoA-2; Class E basic helix-loop-helix protein 75; bHLHe75; Transcriptional intermediary factor 2; hTIF2
遺伝子 ID	10499.0
SwissProt ID	Q15596
免疫原	抗血清は、ヒト NCoA2 の Ser736 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 702-751

**背景**

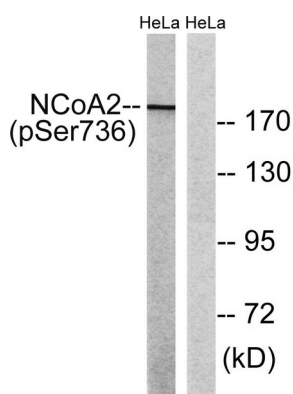
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ステロイド、甲状腺、レチノイド、ビタミン D 受容体などの核内ホルモン受容体の転写共役因子として機能する。コードされるタンパク質は、これらの核内受容体のリガンド依存性活性の媒介因子として機能し、同族の応答配列が結合することで標的遺伝子を制御する。この遺伝子は、急性骨髄性白血病のリジンアセチルトランスフェラーゼ 6A (KAT6A) 遺伝子、急性リンパ芽球性白血病の ETS バリエント 6 (ETV6) 遺伝子、間葉系軟骨肉腫の hes 関連ファミリー bHLH 転写因子 YRPW モチーフ 1 (HEY1) 遺伝子など、様々な癌において他の遺伝子との融合をもたらす転座に関与することが明らかになっている。選択的スプライシングによって、複数の転写バリエントが生じる。 [RefSeq 提供、2016年3月],疾患: NCOA2 に関連する染色体異常は、急性骨髄性白血病の原因となる可能性がある。逆位 inv(8)(p11;q13)は、MYST3/MOZ の N 末端部分と NCOA2/TIF2 の C 末端部分からなる MYST3-NCOA2 がん遺伝子を生成する。MYST3-NCOA2 は CREBBP に結合し、転写活性化におけるその機能を阻害する。ドメイン: 独立して機能する 2 つの C 末端転写活性化ドメイン (AD1 と AD2) を含む。ドメイン: 4 つの Leu-Xaa-Xaa-Leu-Leu (LXXLL) モチーフを含む。LXXLL モチーフは核内受容体との結合に必須であり、少なくとも部分的には機能的に冗長である。ドメイン: LLXXLXXXL モチーフは転写共活性化および CREBBP/CBP 結合に関与する。機能: ステロイド受容体および核内受容体の転写共活性化因子。ステロイド結合ドメイン (AF-2) の共活性化因子であるが、調節 N 末端ドメイン (AF-1) の共活性化因子ではない。NCOA1 とともに、白色脂肪組織と褐色脂肪組織間のエネルギーバランスを制御するために必要です。PTM: DNA が損傷すると、おそらく ATM または ATR によってリン酸化されます。類似性: SRC/p160 核内受容体コアクチベーターファミリーに属します。類似性: 1 つの基本ヘリックス-ループ-ヘリックス (bHLH) ドメインを含みます。類似性: 1 つの PAS (PER-ARNT-SIM) ドメインを含みます。サブユニット: CARM1 および EP300/P300 を含む複合体に存在し、CARM1 および NR3C2 と相互作用します (類似性による)。NCOA3、IKKA、IKKB、IKBK、および CREBBP を含む複合体に存在します。CREBBP と (C 末端を介して) 相互作用します。HIF1A、NCOA1、APEX、および NR3C1 と相互作用します。ESR1、RARA、RXRA と相互作用します。

## 研究分野

## 画像データ



NCoA2 (リン酸化 Ser736) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



TSA 400nM で 24 時間処理した HeLa 細胞のライセートを NCoA2 (リン酸化 Ser736) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。